



1. 被害状況

10月15日から16日にかけて市内を襲った台風26号は、総雨量が市内平均で250mmという記録的な豪雨となりました。手賀沼には市外からも雨水が入り込み、水位が1.65mから3.24mまで上昇し、過去に例がない急激な水位の上昇となりました。このため、手賀沼・手賀川へ排水を行う布佐地区・若松地区では、大きな被害となりました。

地区別の被災状況(平成26年1月20日時点)

| 地域名 | 住家 | | | 非住家 | | | 合計 |
|------|------|------|------|------|------|-------|-----|
| | 床上浸水 | 床下浸水 | 一部損壊 | 床上浸水 | 床下浸水 | 店舗等浸水 | |
| 布佐 | 95 | 282 | 1 | 4 | 0 | 21 | 403 |
| 新木 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 湖北 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 天王台 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 我孫子南 | 1 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| 我孫子北 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 合計 | 96 | 303 | 2 | 4 | 0 | 21 | 426 |



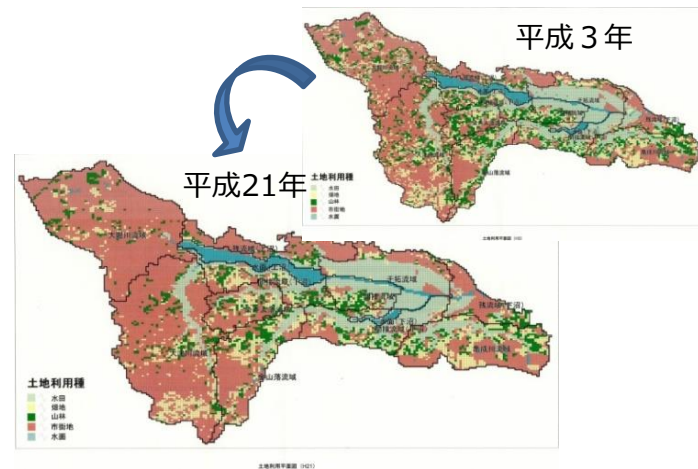
布佐地区・ボートによる救助



若松地区・浸水状況 (奥が手賀沼)

2. 災害発生の要因(手賀沼・手賀川)

布佐地区・若松地区で災害が発生した要因としては、ポンプ場や手賀沼湖岸堤防等の治水施設が整備途上であったことがあげられますが、今回の降雨による手賀沼・手賀川の水位上昇が急激であったことが分かってきました。台風後に行った国の試算では、降雨のピーク時における手賀沼への雨水流入量は、過去の大型台風時平均の約1.6倍となっていました。この理由としては、平成3年から平成21年までの間に、都市開発などにより手賀沼流域の市街化面積が約2割増加していたことが考えられます。このため、市では、手賀沼・手賀川を管理する県や国に万全の治水対策を進めるよう、強く要望しているところです。



3. 布佐地区の状況と今後の対策

布佐地区内の雨水は、布佐葭立暫定ポンプ場から手賀川へ排水をしています。そして手賀沼・手賀川は、北千葉第一排水機場(国交省)と手賀排水機場(改良区)から利根川へ排水をしています。

今回の台風では、手賀沼・手賀川の水位が上昇し、地区内に大量に降った雨を布佐葭立暫定ポンプ場から排水することが困難となったことから、浸水被害が広がったものです。

台風期までの対応

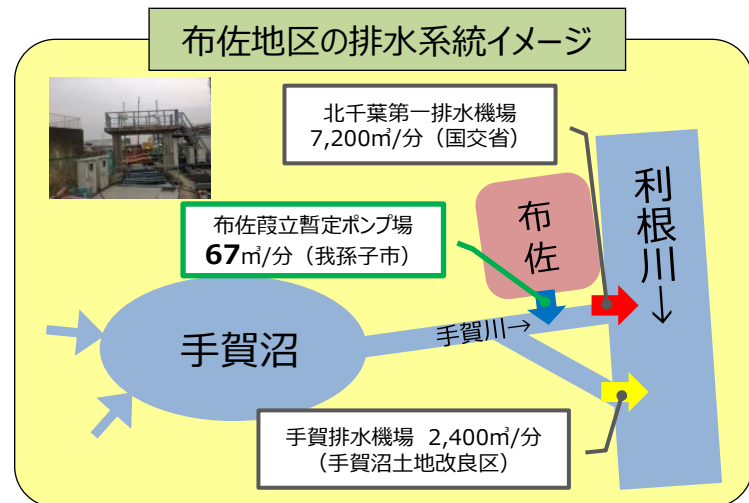
今年の台風期に備え、布佐葭立暫定ポンプ場の改造を行っています。具体的には、ゲート高を嵩上げし、ポンプを1台増設します。これにより、万が一規模の洪水が発生した場合でも浸水時間が大幅に短縮されることが期待されます。また、ポンプ場の能力を上回るような場合を想定し、国が保有する排水ポンプ車の派遣訓練を台風期前に実施できるよう要望しています。



改造イメージ



訓練イメージ



抜本的な対策・布佐ポンプ場建設

布佐地区での浸水被害を解消するため、平成27年3月完成に向け布佐ポンプ場の建設を進めています。このポンプ場は、排水能力が毎分710m³で計画され、第一期として毎分500m³のポンプを整備するものです。これにより、台風26号のような降雨に対しても排水が可能となります。



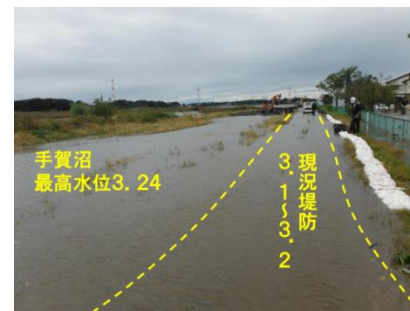
完成予想図

4. 若松地区の状況と今後の対応

若松地区では、手賀沼の急激な水位上昇によって、堤防の低い部分から越水したことなどにより、浸水被害が拡大しました。このため、市では、国交省に排水ポンプ車の出動要請を行うとともに、土のう積みを行い工事用のポンプにより排水活動を行いました。

その後の台風27号の接近に際しては、手賀沼を管理する千葉県により緊急的な盛土工事が行われ、台風26号時の水位を上回る3.4mの仮堤防が築造されました。

市では、県に対して早期の堤防整備を要望するとともに、市街地の雨を排水する樋管・ポンプ場を平成26年度中に完成させるよう工事を進めています。



若松地区堤防越水状況(台風26号時)

5. 台風26号による水害被災者住宅復旧支援補助金

台風26号の大雨により多くの住宅に被害があったことを踏まえ、市では住宅の早期復旧を目的とした補助制度を、既存の制度に加えて新たに設け、郵便物や広報等でお知らせしてきました。12月の受付開始以降の申請状況は右表のとおりです。申請は、工事完了後で期限は3月20日(木)までです。

(被災住宅の修繕のために一時的に賃借された住宅の家賃補助の対象期間も3月20日まで)

この制度の他に、住宅リフォーム補助金についても、水害被災者の皆様には3月20日まで申請期間を延長しています(3月20日までに完了する工事対象)。詳しくは、市ホームページまたは、建築住宅課(内601、602)までお問い合わせください。

補助金申請状況(平成26年2月17日時点)

| | |
|-------------------------------|--------------------|
| 申請件数 | 67件 |
| うち被災住宅の修繕のために一時的に賃借された住宅の家賃補助 | 1件 |
| 交付申請額合計 | 約860万円 |
| 申請内容の主な例 | 畳の取替、エアコン・給湯器の交換など |

6. 国や県に対する要望活動

今回の台風26号被害を受け、手賀沼・手賀川を管理する県や国に対して、台風の接近などにより水位上昇が見込まれる場合には事前に手賀沼・手賀川の水位を低下すること、水防法に基づく水位情報周知河川に指定すること及び万全の治水対策を進めることを要望しています。また、国に対しては、万が一、災害が発生した場合を想定し、国が保有する排水ポンプ車の派遣訓練を台風期前に実施できるよう要望しています。

なお、手賀沼・手賀川の農業用水を利用している手賀沼土地改良区に対して、事前放流への協力や浸水被害発生時の排水調整の検討などについて協力を要請しています。

この他、国や県に対して、財政的な支援についても要望を行っています。



高木国土交通副大臣への要望

7. 幹線の総点検(布佐地区)

布佐地区で浸水被害を受けた住民の方から、“手賀沼水位がピークを越えた後も水深は上昇し、午後3時頃から減少に転じた”との情報が寄せられました。この現象は、手賀川水位が低下した後も、布佐葭立暫定ポンプ場からの排水が困難となったため、記録的な雨による浸水の拡大・伝播が継続していたものと推測しています。

また、布佐地区では、東日本大震災等により地盤沈下が進行し、排水機能が低下し、浸水を助長していることが懸念されており、確実な排水を行うため既存幹線の再点検を実施し、今後の幹線整備の基礎資料とします。この検討の中で、専門家からも意見を聴取し、台風26号時の浸水メカニズムの検証を行います。

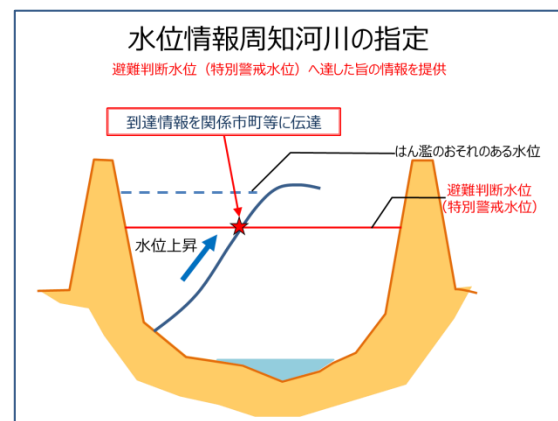


布佐地区の浸水状況

8. 水位情報周知河川の指定

市では、今回の浸水被害を受け、国が管理する手賀川、県が管理する手賀沼を水防法に基づく水位情報周知河川に指定し、観測態勢を強化するよう求めています。同河川に指定されると、水防団、消防機関の出動等の目安となる警戒水位を超える水位として避難判断水位(特別警戒水位)が設定され、住民等の避難等に資する洪水情報が提供されることになります。

早期の指定に向け、2月10日に国、県、我孫子市による準備会合を開催し、指定に向けた検討体制や今後のスケジュールの確認を行っています。



〔発行・問合せ〕: 我孫子市役所 建設部 治水課
Tel.04-7185-1111(代表)
ホームページ URL <http://www.city.abiko.chiba.jp/>



建設部治水課では、市内の治水情報を発信するため、ツイッターを利用した試行的ページを開発しています。ぜひ、フォローして治水情報を入手してください。
@abk_chisui